

イスラエル十二部族(失われた十部族?)

BC1900年頃、イスラエル人の父祖で、ヤコブという人がいた。ヤコブは後に自分の名を「イスラエル」と改めた。彼の子孫がイスラエル民族と呼ばれる(創世記32:29)。ヤコブ(イスラエル)には12人の息子がいた(下図①ルベン~⑫ベニヤミン)。

イスラエルの十二部族に分割されたカナン (BC1400~1000頃)

エゼキエル書47:13~14

主なる神はこう言われる。「あなたたちが、イスラエルの十二部族に土地を嗣業として割り当てるときの境界線は、次のとおりである。ヨセフの割り当て地は二倍である。



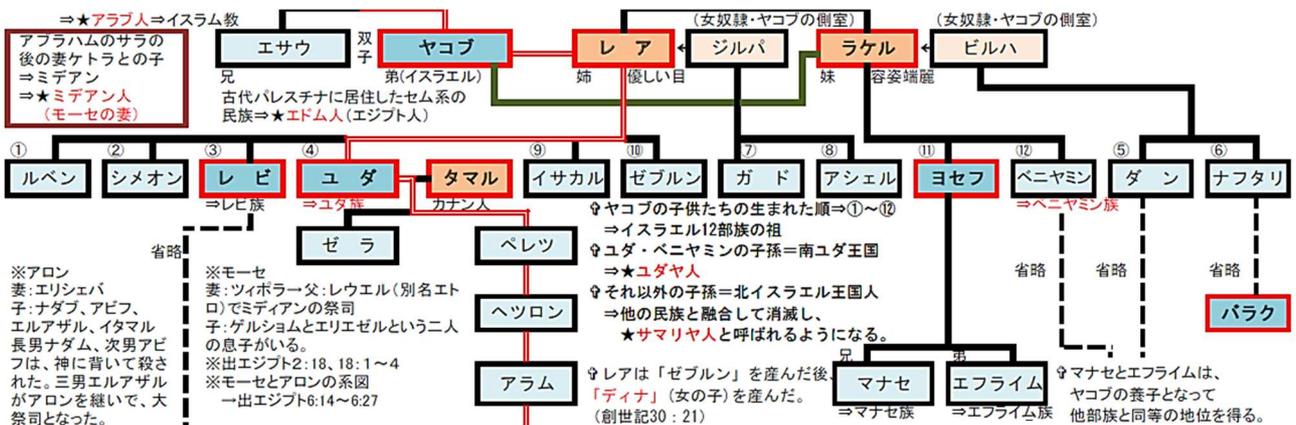
あなたたちは、土地を平等に割り当てねばならない。この土地は、わたしがあなたたちの先祖に与える、と手を上げて誓ったものである。この土地は、あなたたちに嗣業として割り当てられる。

→ヨセフの割り当て地が二倍とされるのは、ヨセフの実子であるマナセとエフライムに割り当てられるからである(創世記48:5~6)。レビ族③には特別な務めが与えられていたため、土地の割り当てはなかった(民数記1:47~53)。残りの土地はヤコブの息子たちの子孫の間で分割された(参照:ヨシヤ記13~19章)。

- ①ルベン REUBEN
- ②シメオン SIMEON
- ⑤ダン DAN
- ⑥ナフタリ NAPHTALI
- ⑦ガド GAD
- ⑧アシェル ASHER
- ⑨イサカル ISSACHAR
- ⑩ゼブルン ZEBULUN
- ⑪ヨセフ
- ⑪マナセ MANASSEH / ⑪エフライム EPHRAIM
- ④ユダ JUDAH
- ⑫ベニヤミン BENJAMIN → 一部は、北王国となる

統一王国イスラエルを形成していた十二部族は、イスラエル第3代の王ソロモン王の死後(BC930頃)、南北に分裂する。十二部族のうち、10部族がヤロブアムを支持し、レハブアムのもとに残ったのはユダ族とベニヤミン族の一部だけであった。
 →●北王国(イスラエル王国、サマリアともいう)=10部族
 →●南王国(ユダ王国、ユダヤともいう):ユダ族を中心として残りの部族=ユダヤ人

⑫ダン族とエフライム族は、偶像礼拝を行った(後述)。



出典(系図): 聖書 Navi Active 聖書人物略図(イエス・キリストの系図)の一部

▶BC 8 世紀にはメソポタミアにはアッシリア※₁が台頭、BC732 年にはアラム王国を滅ぼし、北王国（イスラエル王国）にも迫った。北王国は、最初はアッシリアに朝貢していたが、BC724 年ホシュア王がエジプトと結んでアッシリアに反抗すると、アッシリア帝国のサルゴン 2 世（シャルマヌエセル）は遠征軍を送り、BC722（721）年に首都サマリアを攻撃、イスラエル王国を征服（王国は滅亡）した。サルゴン 2 世は、北王国イスラエルの十部族をアッシリアへの捕囚として、強制移住させ、その跡に異民族を入植させた。これによって残留のイスラエル人と異教徒の混合が進んだ（下記【参考】サマリア人参照）。以来、北王国の十部族は、歴史の公の舞台から消え去ったとされている。

▶一方の南王国（ユダ王国）は滅亡を免れたが、アッシリア帝国に従属し、貢納を続けて属国同様となった。その後、アッシリア帝国が滅亡、バビロニアに興った新バビロニアによって、BC586 年に都エルサレムの神殿も破壊され、滅亡した。その時、多くのユダヤ人がバビロンに連行された（バビロン捕囚）。→このとき、アッシリア捕囚となった北王国の部族もバビロン捕囚となったとも考えられ、十二部族のすべてがバビロンの支配下に置かれるようになった。従って、「イスラエルの失われた十部族」という考え方は不自然（神話的解釈）である。

後、ペルシアのキュロス二世は、東方各地を転戦して征服し、BC539 年にオピスの戦いでナボニドゥス率いる新バビロニア王国を倒した。キュロス二世（アケメネス朝ペルシャの初代の王）は、BC538（537）年に「キュロスの勅令」（捕囚の民をエルサレムに帰還させ神殿を再建することを許す布告）を発し、バビロン捕囚にあったユダヤ人（十二部族）をはじめ、バビロニアにより強制移住させられた諸民族を解放した。キュロスは、被征服諸民族に対して寛大であったので、後世に理想的な帝王として仰がれ、ユダヤ人を解放して帰国させたことから旧約聖書ではメシア（救世主）と呼ばれている（主が油を注がれた人キュロス〈イザヤ書 45 : 1〉）。

→エズラ記 1 : 1~5 ペルシアの王キュロスの第一年のことである。主はかつてエレミヤの口によって約束されたことを成就するため、ペルシアの王キュロスの心を動かされた。キュロスは文書にも記して、国中に次のような布告を行き渡らせた。「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた。あなたたちの中で主の民に属する者はだれでも、エルサレムにいますイスラエルの神、主の神殿を建てるために、ユダのエルサレムに上って行くがよい。神が共にいてくださるよう。すべての残りの者には、どこに寄留している者にも、その所の人々は銀、金、家財、家畜、エルサレムの神殿への随意の献げ物を持たせるようにせよ。」そこで、ユダとベニヤミンの家長、祭司、レビ人、つまり神に心を動かされた者は皆、エルサレムの主の神殿を建てるために上って行こうとした。

※ 1 : アッシリア帝国

BC 3 千年紀（BC3000 年~BC2001 年）から北メソポタミアに起こり、オリエントの有力諸民族に服従していたが、BC 8 世紀に鉄製武器・戦車などにより有力となり、BC663 年までに、メソポタミア・エジプトにまたがるオリエント全域を最初に統一した世界帝国。ニネベを中心に楔形文字などの高度な文明を築いたが、領内の諸民族の抵抗により、BC612 年に滅亡した。

出典：世界史の窓 アッシリア帝国の最大領土(BC7世紀)



▶聖書「ルカによる福音書」には、次のように記されている。

また、（北王国の）アシェル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いであら七年間夫と共に暮らしたが、(2 : 36)・・・。

新約時代に「北王国のアシェル族」が登場し、他の箇所でも「十二部族」の記述、(フィリピの信徒への手紙 3 : 5 では、「わたし(→パウロ)は生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です)がある（下記【参考】十二部族参照）。

▶以上の点より、「イスラエルの失われた十部族」という考え方は不自然で誤り（神話的解釈）である。

【参考】サマリア人

サマリア (Samaria) は、パレスチナ中央部の地域名で、北にガリラヤ、南にユダヤが接する。「列王記」によると、サマリアという名前は昔この辺の土地を持っていた地主「シェメル/セメル Shemer」の名前が起源とされる。

→列王記上 16:23~24 ユダ (南王国) の王アサの治世 (BC911~870/913~873) 第三十一年に、オムリが (北) イスラエルの王 (BC885~874/876~869) となり、十二年間王位にあった。彼は六年間ティルツァで国を治めた後、シェメルからサマリアの山を銀二キカル (約 34 kg/キカル×2=約 68 kg、Ag80 円/g×68 kg≒544 万円) で買い取り、その山に町を築いた。彼はその築いた町の名を、山の所有者であったシェメルの名にちなんでサマリアと名付けた。

→オムリ：列王記に記されている以上に実際には王として成功を収めた (列王記 16:21~27)。モアブを支配し、息子の婚姻を通してシドンと同名を結び (16:31)、サマリアを築いて首都とした。しかし、この卓越した政治力も信仰の面では発揮されなかった (16:25~26、ミカ書 6:16)。



その後この辺り周辺が北イスラエル王国の首都となったため、都市に限らずにこのあたりの地域やもっと広く北イスラエル王国そのものを指すようになった。

BC722 年、北イスラエル王国は、アッシリアに滅ぼされ属領 (住民を奴隷として連れ去りーアッシリア捕囚、代りにメソポタミア北部ーチグリス川とユーフラテス川の上流域ーのアッシリア人、アラム人を移住させた) となる。この移住してきた異民族と混血したのがサマリア人で、以後長く異教徒としてユダヤ人に排斥された。

サマリア人はゲリジム山 (申命記 11:29) に神殿を持っていて、祭司もおり、また、独自の解釈をしていた (ルカによる福音書 10:25~37) ので、ユダヤ人はサマリア人をイスラエルの神に忠実でないと考えていた。

新約聖書にある「サマリア人」(旧約聖書では、列王記下 17:29 のみにサマリア人が登場する)

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 8 / 聖句等の総数 33250 (サマリア人)8個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: サマリア人]
S マタイによる福音書	10:5 イエスはこの十二人を派遣するにあたり、次のように命じられた。「異邦人の道に行ってはならない。また、サマリア人の町に入ってはならない。→イエスの時代、ユダヤ人の中には、決して異邦人と付き合うべきではないと信じている者やサマリア人を嫌悪する者もいた。	
S ルカによる福音書	9:52 そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。	
S ルカによる福音書	10:33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、	
S ルカによる福音書	17:16 そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。	
S ヨハネによる福音書	4:9 すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。	
S ヨハネによる福音書	4:39 さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。	
S ヨハネによる福音書	4:40 そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるように頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。	
S ヨハネによる福音書	8:48 ユダヤ人たちが、「あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」と言い返すと、	

【参考】聖書にある「十二部族」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 9 / 聖句等の総数 33250 <十二部族>9個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 十二部族]
K 出エジプト記	24:4 モーセは主の言葉をすべて書き記し、朝早く起きて、山のふもとに祭壇を築き、十二の石の柱をイスラエルの十二部族のために建てた。	
K 出エジプト記	28:21 これらの宝石はイスラエルの子らの名を表して十二個あり、それぞれの宝石には、十二部族に従ってそれぞれの名が印章に彫るように彫りつけられている。	
K 出エジプト記	39:14 これらの宝石はイスラエルの子らの名を表して十二個あり、それぞれの宝石には、十二部族に従ってそれぞれの名が印章に彫るように彫りつけられた。	
K エゼキエル書	47:13 主なる神はこう言われる。「あなたたちが、イスラエルの十二部族に土地を嗣業として割り当てるときの境界線は、次のとおりである。ヨセフの割り当て地は二倍である。	
S マタイによる福音書	19:28 イエスは一同に言われた。「はっきり言っておく。新しい世界になり、人の子が栄光の座に座るとき、あなたがたも、わたしに従って来たのだから、十二の座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。	
S ルカによる福音書	22:30 あなたがたは、わたしの国でわたしの食事の席に着いて飲み食いを共にし、王座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。」	
S 使徒言行録	26:7 私たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕え、その約束の実現されることを望んでいます。王よ、私はこの希望を抱いているために、ユダヤ人から訴えられているのです。	
S ヤコブの手紙	1:1 神と主イエス・キリストの僕であるヤコブが、離散している十二部族の人たちに挨拶いたします。	
S ヨハネの黙示録	21:12 都には、高い大きな城壁と十二の門があり、それらの門には十二人の天使がいて、名が刻みつけてあった。イスラエルの子らの十二部族の名であった。	

【参考】新約聖書に登場する「北王国の十部族」

→①ルベン族＝黙示録 7：5、⑥ナフタリ族＝黙示録 7：6、⑦ガド族＝黙示録 7：5、⑧アシェル族＝ルカによる福音書 2：36、黙示録 7：6、⑨イサカル族＝黙示録 7：7、⑩ゼブルン族＝黙示録 7：8、⑪マナセ族＝黙示録 7：6、

⑫ダン族とエフライム族は、新約聖書に登場しない。

→理由：⑤ダン族は、偶像礼拝をしていた（士師記 18 章、列王記上 12：28～33）。

⑪エフライム族も同様、偶像礼拝をしていた（ホセア書 4：17）。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 5 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ルカによる福音書	2:36 また、 <u>アシェル族</u> のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、	
S ヨハネの黙示録	7:5 ユダ族の中から一万二千人が刻印を押され、 <u>ルベン族</u> の中から一万二千人、 <u>ガド族</u> の中から一万二千人、	
S ヨハネの黙示録	7:6 <u>アシェル族</u> の中から一万二千人、 <u>ナフタリ族</u> の中から一万二千人、 <u>マナセ族</u> の中から一万二千人、	
S ヨハネの黙示録	7:7 <u>シメオン族</u> の中から一万二千人、 <u>レビ族</u> の中から一万二千人、 <u>イサカル族</u> の中から一万二千人、	
S ヨハネの黙示録	7:8 <u>ゼブルン族</u> の中から一万二千人、 <u>ヨセフ族</u> の中から一万二千人、 <u>ベニヤミン族</u> の中から一万二千人が刻印を押された。	

バビロニアおよびペルシアの王・在位等に関する相関歴史年表（期間：BC634年～BC424年）

BC634	▶▶ 🗡️ ネボカドネツアル 2 世出生（父：バビロニア王国の建国者ナボポラッサル王）
626	
625	▶▶ 🗡️ バビロニア王国建国 （カルデア王国） ナボポラッサルによりメソポタミア南部のバビロニア（カルデア）を中心に建国（BC625）され、アケメネス朝ペルシアのキュロス 2 世によって征服（BC539）されるまで、地中海沿岸地域に至る広大な領土を支配した帝国
612	▶▶ 🗡️ アッシリア王国滅亡 ：バビロニアとメディアの連合軍によって首都ニネベを占領され、滅亡。 （ゼファニア書 2：13）
606	♡ ナボポラッサル王死去（BC605）に伴い、
605	🗡️ ネボカドネツアル 2 世即位 （バビロニア王国の第 2 代王、在位：BC605～BC562）
604	→ユダの王ヨヤキム（在位：BC609～598）が即位して三年目（→BC606）のことであった。 バビロンの王ネボカドネツアルが攻めて来て、エルサレムを包囲した（ダニエル書 1：1～6）。 →BC605、ダニエル、バビロンに捕囚となる（ネボカドネツアルの在位期を考慮するとBC605頃と考えられる）。
603	
602	
601	
600	
599	
563	🗡️ ペルシア、キュロス 2 世出生 （？）→父：キュロス 1 世の子、カンビュセス 1 世、母：マンダネ （在位：BC640～BC580）（在位：BC580～BC559）
562	♡ ネボカドネツアル 2 世死去
561	🗡️ アメル・マルドゥク即位 （バビロニア王国の第 3 代王、在位：BC562～BC560）
560	
559	🗡️ ペルシア、キュロス 2 世即位 （アケメネス朝ペルシアの初代国王、在位：BC559～BC530）
558	🗡️ ネルガル・シャレゼル即位 （バビロニア王国の第 4 代王、在位：BC560～556）
557	
556	🗡️ ラバシ・マルドゥク即位 （バビロニア王国の第 5 代王、在位：BC556）
555	🗡️ ナボニドス即位 （バビロニア王国最後の王、在位：BC555～BC539）
554	
553	
552	
551	
550	🗡️ ダレイオス 1 世出生 （BC550頃）
549	小王国アンシャン第 7 代王キュロス 2 世がメディア王国を滅ぼし、アケメネス朝を建国。 →メディア、ペルシアの属州となる（BC549）。
540	
539	♡ ナボニドス （バビロニア王国最後の王）死去（？）、♡ ベルシャツアル 死去 [バビロニア王国滅亡／バビロン陥落 （BC539）（ダニエル書 5：30） ペルシア軍により捕らえられた父ナボニドスが特赦されたのとは異なり、 ベルシャツアルはバビロン陥落の夜に殺された。] BC539、ペルシア（アケメネス朝）のキュロス 2 世は、新バビロニア王国を滅ぼし、バビロン捕囚も終焉させた。 BC331、ダレイオス 3 世（BC336～330）の時、ギリシア北部山岳地帯マケドニアのアレクサンドロス 3 世（大王）により敗れ、 ペルシアは滅亡した。
538	
537	
536	
535	
534	
533	
532	
531	
530	
529	🗡️ カンビュセス 2 世即位 （在位：BC530～BC522）
528	
524	
523	
522	🗡️ ダレイオス 1 世即位 （在位：BC522～BC486）28 歳頃
521	Ⓜ️ メディア人ダレイオスは 62 歳で王国を継いだ （ダニエル書 6：1）とあり、 ダレイオス 1 世とは異なる 。 →メディア人ダレイオスは、ダニエル書 6：1、9：1 のみに登場する人物である。
520	
519	🗡️ クセルクセス 1 世出生 （BC519）
518	
488	エルサレム神殿再建（BC515）→第二神殿時代：BC515～エルサレム神殿破壊（AD70）
487	
486	♡ ダレイオス 1 世死去
485	🗡️ クセルクセス 1 世即位 （在位：BC486～BC465）→王妃： エステル （エステル記 2：16） （ユダヤ人モルデカイの養女 エステル記 2：7）
466	
465	♡ クセルクセス 1 世死去
464	🗡️ アルタクセルクセス 1 世即位 （在位：BC465～BC424）
425	
424	